

第7回「こえる場！」ニュースレター



日時：令和元年 11 月 8 日（金） 午後 1 時 30 分～午後 4 時
場所：芦屋市消防庁舎 3 階 多目的ホール



福祉部地域福祉課
吉川 里香

今回の「こえる場！」は、第6回の「こえる場！」でいただいたご意見を具体的に
していくために、企業・団体さまから取り組みたいことと『こえているポイント』を
ご提案いただきます。

ご提案内容を通して、『こえる』ということはどういったことなのかを深めていく
機会としたいと考えています。

事務局アドバイザー紹介

行政内だけでは、行政の枠を超えら
れないため、事務局の運営を一緒に
担っていただいています。

「こえる場！」の運営や取組について、我々から見て、どうしていきたいかという
ことも含めて、話し合いを進めているところです。

まず、何かイベントなどの取組をするとしても、その前に皆さんで協働するため、
チームビルディングをしっかりしていくことが大事だと考えています。

持っているリソース、背景、どんなことを目指しているか、どんなことができるかを
分かり合った上で、いろんなチームができていくのがいいのではないのでしょうか。



阪急阪神ホールディングス（株）
石原 敏孝 氏



生活協同組合コープこうべ
藤井 智生 氏

言った者がやらないといけないというのではなく、アイデアを出してみんなでや
っていきましょうという体制で進めてほしいと希望をお伝えしていますので、皆さ
んも自由にアイデアを出していただけたらと思います。

皆さんも目的があってこの場にいられていると思うのですが、芦屋市も目的があ
って我々を集めているので、そのバランスを見ながらどこで合致をしていくのか考
えながら、チームとなって、芦屋市をより住みやすい地域にしていく、福祉のまち
にしていく、ということと一緒に進めていけたらと思いますのでよろしく
お願いします。

最初に、「こえる場！」のお話をいただいたときに、行政だけではなくて一般
市民や団体、学校、いろんな関係者を集めて芦屋市を元気にして活性化しよう
ということで、そんな素晴らしい取組はないなと思いました。

最終的には、地域のそれぞれの場所が明るく元気な場所に活性化して、みんな
の住みよいまちになっていくというのを目指していますので、それを仕掛けるた
めには「こえる場！」が必要で、イベントが必要で、その中で「こえる場！」が
認知されて継続されていくものだと思っています。

いろんなつながりを持って、芦屋市を元気に明るくできたらと思っています。



（学）芦屋学園 芦屋大学
中村 光男 氏

[NO.1]



(株) ブランツ・キューブ
鍋島 奈穂子 氏

【笑い場 Ai・SMILEプロジェクト】

弊社は、障がいのある方、主に精神疾患の方を支援しております。その中で、当事者はもちろん、支える人も元気でないといけないと思い、「笑い場」を企画しました。

(具体的な内容) 笑いヨガ、落語講座、笑えるコンサート、

プレミアムフライデーを利用した市役所広場でのマルシェ等

(募集) 演者や講師、開催場所、集客の手伝いやチラシ設置協力

[NO.2]



(学) 芦屋学園 芦屋大学
中村 光男 氏

【『まなび場』で“???”を“!!!”に、そして＼(^o^)／に!!! ☆彡】

『まなび場』プロジェクトを通じて芦屋市全域で人々が交流し、居場所ができ、人々がつながり、市民の皆さんが人生をより豊かにすることができるようになることをめざしています。

また、『まなび場』に登録している「まなびの提供者」が実施するイベントに参加することで貯まる『まなび〜』(仮称・『Mポイント』)もやっていきたいと考えています。

[NO.3]



(福) 聖徳園
税所 篤哉 氏

【おっちゃん×〇〇(作り)＝地域を豊かに！地域で輝けおっちゃんの力！】

昨年、「食を通じた多世代交流」を実施する中で、我々働く世代、ミドル世代の参加が少ないと感じました。しかし、その世代が持つ様々な力を地域づくりの力に変えていきたいと思い、若年・中高年層へアプローチを考えました。

(例) おっちゃん×RUN(見守り・健康増進)⇒交流、仲間づくり

おっちゃん×DIY(趣味から仲間づくり)⇒担い手、交流、講座、連携

おっちゃん×Cafe(経験からのよろず相談)⇒担い手、社会参加、共生

[NO.4]



パークマルシェ実行委員会
渡辺 直子 氏

【市民活動イベント「パークマルシェ」の企画・開催・運営を一緒に！】

パークマルシェとは、公園を市民活動の場として活用し、市民のやりたいこと・できることを実現しながら、公園の持つ新たな用途と役割を発掘するワークショップのマルシェのことです。

物販のためのマルシェではなく、来場者にさまざまな体験や学びを提供するワークショップのマルシェというのがポイントです。

(募集) テントや机、発電機などの備品、スタッフ、アイデア、プログラム、広報

[NO.5]



アトリエ たいようのした
中山 英子 氏

【廃材を活用した創作活動の仕組みづくり】

芦屋公園で、廃材を活用して、やりたい・やってみたいという気持ちを表現する場として活動しています。

今後は、廃材のリサイクルセンターであるレミダの仕組みをつくっていききたいと考えており、リサイクル、地域とのつながり、知的好奇心の刺激、教育現場への貢献ができるのではないかと考えています。

[NO.6]



(株) POP-ID
増田 多加恵 氏

【着ぐるみ+歌+ダンスで地域交流！サーキットだけでなく、地元の各世代を繋ぐための仲介役になりたい】

弊社のイヌメンZというキャラクターは、芦屋市での認知度が低く、地元の人に愛してもらえるキャラクターにしたいと思っています。

各世代をつなぐための仲介役として活躍したいです！

(提供できるもの)「イヌメンZ」の着ぐるみ、「イヌメンZのテーマ」音源、ダンス、販売が難しい子供向けのキャラクターグッズや生地

[NO.7]



(特非) さんびいず
河口 紅 氏

【芦屋こえる場！フェスティバル（仮称）のメイキングを楽しむプロジェクト】
市内で開催されている既存の複数のイベントを「芦屋こえる場！フェスティバル（仮称）」という軸で連携させることにより、更なる地域の活性化を目指していきたいと思っています。

さらに、連携させるためのメイキング（準備）期間自体を地域のネットワーク構築とすることも目的としてはどうでしょうか。

[NO.8]



生活協同組合コープこうべ
藤井 智生 氏

【芦屋まなび食堂（仮）「学び」と「食」を軸とした地域での役割&つどい場づくり】
「食」に関する「学び」の場を設け、地域のつどい場でアウトプットを行う、循環の仕組みを考えています。

（例）①栄養士によるシニア向けの料理教室

②子ども向けの釣り教室&魚の手さばき教室

（リソース）組合員集会室、廃棄食材、職員（魚のプロ）、生産者とのつながりなど

芦屋いずみ会は、食育活動、食生活の改善を目指して活動しており、レシピの活用等をしたいと考えています。



芦屋いずみ会
小山 香代子 氏

[NO.9]



(福) 芦屋市社会福祉協議会
池原 恵子 氏

【「働けない」をこえる社会へ！あったらいいな！こんな場所】

生活困窮者自立支援制度に基づき、様々な理由で生活に困っている人の相談支援を行ってきた中で、「働く」ということが、高い壁になってしまっている方に対する支援を福祉だけで行うには限界を感じています。

打開策の一つとして、普通に働けるようになるまであと一歩、働くのが初めてという人が安心してその一歩を踏み出せる場所を求めています。

（募集）短時間から、支援つきでも働けて、報酬がもらえる場所

アトリエ
たいようのした



パークマルシェ

タッグが生まれました！

「参加したい」・「こえている」と思った提案に投票しました！

	No. 1	No. 2	No. 3	No. 4	No. 5	No. 6	No. 7	No. 8	No. 9
	プランニングキューブ	芦屋大学	友徳会	市民生活協同組合 清原さん	市民生活協同組合 中山さん (アトリエたいようのした)	POP-ID	さんびいず	コープこうべ	芦屋市社会福祉協議会
参加したい	18	22	19	22	30	16	26	33	12
こえている	3	16	7	18	23	10	44	23	20





(株) 芦屋人
柴田 愛 氏

「こえる場！」について、地域力強化につながることであれば、柔軟に提案できる場なのだと感じました。



企画部政策推進課
井村 元泰

芦屋市は来年度、市政 80 周年の記念事業を通じて、多様な主体とつながり、未来につながる関係性を構築する、ということを目指しています。

まさに、「こえる場！」の取組が、そういった未来につながる関係性を作れる場ではないかと思っています。

芦屋市政 80 周年記念事業という冠をつけていただくことで、市の広報等でご協力をすることができます。



ちきゅうっ子応援隊
池内 清 氏

イベントをすることで、参加してもらった人に喜んでもらえるだけでなく、やっている方も満足感を得て成長していけると思いますし、新しい経験も積み、とても意義があると思います。

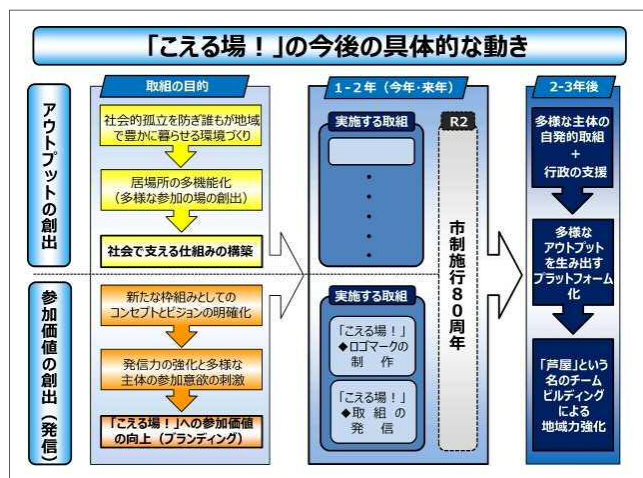
皆さんに、3つお伝えしたいことがあります。

- ①国では、地域とともに支え合う地域共生社会を推進しており、企業とともに取組をすすめる「こえる場！」は先進的な取組として注目されています。
- ②行政ではセクションごとの課題把握に留まってしまうがちで、横断的な地域課題の把握が難しいですが、いろんな企業・組織が地域に密着することで地域課題に気づいていく、気づいたことをそれぞれの主体が共有する場があるというのは素晴らしいと思います。
- ③「こえる場！」は行政がこれまでの伝統的な文化を超えていくための場でもあるため、今回、市民協働の分野から参加があったように場への参加が地域福祉から広がりつつあることは一つのポイントだと思います。



日本福祉大学
平野 隆之 教授

今後の具体的な動き



左図は、今後、「こえる場！」をこう展開していきたいと示したものです。

「こえる場！」のロゴマーク作成や、取組の発信の仕方などについて皆さんにご意見をお聞きしたいと思っていますので、ご協力をよろしくお願いいたします。



企画部市民参画課
御宿 弘士

企業・団体等で実施するイベントの周知等お知らせする内容等がありましたら地域福祉課までご連絡ください！

《お問合せ》 芦屋市福祉部地域福祉課

TEL : 0797-38-2040 FAX : 0797-38-2060

Mail : chiikifukushi@city.ashiya.lg.jp